

メキシコ政治情勢（3月）

〔概要〕

【内政】

- 1～2日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は54%で、前月比6%減。
- 21日、メキシコ市新国際（フェリペ・アンヘレス／サンタ・ルシア）空港の竣工記念式典が開催。
- 22日、国民行動党、開催日程を調整していた連邦政府との対話会合を行わない旨発表。

【外交】

- 2日、ルーラ元伯大統領が訪墨。
- （2月28日～3月）3日、フェルナンデス米国務次官が訪墨。
- 7日、エブラル外相がロサンゼルスを訪問。
- 9日～11日、グティエレス「ロ」大統領夫人がアルゼンチン及びチリを訪問。
- 9日、アルバレス西外相が訪墨。
- 10日、欧州議会で墨治安情勢を懸念する決議が採択。墨政府が反発。
- 14日、マヨルカス米国土安全保障局長官が訪墨。
- 23日～24日、ウクライナの人道状況に係る国連安保理及び総会決議が採決にかけられ、前者（露主導）は否決、後（墨仏主導）は採択された。
- 23日～24日、連邦議会下院で墨露、墨米、墨中友好議員連盟が発足。
- 25日、米軍司令官による、墨におけるロシアの諜報活動指摘を受け、墨政府が反発。
- 25日、デ・ラ・フエンテ墨国連常駐代表が、北朝鮮によるミサイル発射を非難。
- 26日～4月1日、「エ」外相がサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦及びインドを訪問。
- 31日、ケリー米気候変動特使が訪墨。

【内政】

1 大統領支持率等に係る世論調査結果

1～2日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。「ロ」大統領の支持率は54%で前月比6%減。不支持率は43%で前月比5%増。

（2月11～13、18～19、及び25～26日に、全国の有権者各500名（計1,500名）を対象に電話で調査を実施。誤差±2.5%。＊を付けた質問は18～19日に、**を付けた質問は25～26日に実施。）

（1）「ロ」大統領の取組を支持するか。

ア 支持する：54%（前回（1月、以下同じ）60%）

- イ 支持しない：43%（前回38%）
- (2)「ロ」大統領のイメージは、ヒューストン事案（注：同大統領子息が同地で豪邸を賃借・居住していた事案）の問題で強化されたか、傷がついたか。*
- ア 傷がついた：50%
- イ どちらでもない：29%
- ウ 強化された：16%
- (3)「ロ」大統領によるヒューストン事案への対応は**
- ア とても良い、又は良い：36%
- イ とても悪い、又は悪い：38%
- (4)「ロ」大統領によるヒューストン事案関連情報を受けたジャーナリストや各種メディアへの対応は**
- ア とても良い、又は良い：35%
- イ とても悪い、又は悪い：40%
- (5)ヒューストン事案に関する意見は。
- ア 捜査を必要とする利益相反があった可能性があると思う：46%
- イ 大統領に反対する者からの攻撃に過ぎない：40%
- (6)前問の支持政党別の回答結果
- ア 国家再生運動（MORENA、与党）支持者
- ①捜査を必要とする利益相反があった可能性があると思う：21%
- ②大統領に反対する者からの攻撃に過ぎない：67%
- イ 支持政党なし
- ①捜査を必要とする利益相反があった可能性があると思う：49%
- ②大統領に反対する者からの攻撃に過ぎない：34%
- ウ 野党支持者
- ①捜査を必要とする利益相反があった可能性があると思う：69%
- ②大統領に反対する者からの攻撃に過ぎない：25%
- (7)ヒューストン事案に関し、どうすべきか。**
- ア 「ロ」大統領及び政権を支援すべき：33%
- イ 「ロ」大統領及び政権に透明性を求めるべき：55%
- (8)「ロ」大統領が、ヒューストン事案関連情報を公開したジャーナリストの推定年収を公開したが、右対応は、*
- ア 正しい。国民は、同ジャーナリストの収入を知るべき：33%
- イ 正しくない。権力の濫用である：58%
- (9)以下の事項につき、昨年一年間で国内の状況は改善したか、悪化したか。
- ア 表現の自由
- ①改善した：39%

②悪化した：27%

③変化がない：30%

イ ジャーナリストに対する暴力

①改善した：12%

②悪化した：55%

③変化がない：30%

(10) メキシコとスペインの関係を如何に評価するか。

(注：「ロ」大統領は最近、早朝記者会見他において、西企業の当地における活動等をめぐりスペインに批判的な言動を行っていた。)

ア とても良い、又は良い：38%

イ とても悪い、又は悪い：21%

(11) 「墨西関係を中断すべき」との考え(注：「ロ」大統領が定例早朝記者会見で発言した内容)に賛成か、反対か。

ア 賛成：43%

イ 反対：43%

(12) 墨西関係が中断されれば、メキシコを利するか、害するか。

ア 利する：24%

イ いずれでもない：23%

ウ 害する：37%

(13) 以下の「ロ」大統領に期待される特質について好評価するか。

ア 誠実さ：45% (前回57%)

イ リーダーシップ：43% (前回53%)

ウ 結果を出す能力：37% (前回50%)

(14) 各分野における「ロ」政権の取組を如何に評価するか。

ア ワクチン接種

①とても良い、又は良い：69% (前回70%)

②とても悪い、又は悪い：17% (前回17%)

イ 経済

①とても良い、又は良い：36% (前回37%)

②とても悪い、又は悪い：47% (前回45%)

ウ 治安対策

①とても良い、又は良い：25% (前回29%)

②とても悪い、又は悪い：60% (前回58%)

エ 汚職対策

①とても良い、又は良い：31% (前回38%)

②とても悪い、又は悪い：50% (前回45%)

(15) メキシコが現在抱えている主要な問題はどれか。

ア 治安の悪さ：38%

イ 経済、失業：23%

ウ 新型コロナウイルス感染症、保健：17%

(16) 総じて、メキシコは如何なる道を進んでいるか。

ア 良い道を進んでいる：31% (前回33%)

イ 悪い道を進んでいる：37% (前回36%)

2 メキシコ市新国際空港の竣工

21日、メキシコ市新国際（サンタルシア／フェリペ・アンヘレス（AIFA））空港の竣工式典が行われた。「ロ」大統領は同日の定例早朝記者会見で、新空港の建設事業は完了できないとの反対派の予想もあったが無事竣工した旨、その他インフラ事業は順調に進捗している旨、また、公共事業は全て予算内で賄われており、債務の増加は生じていない旨発言。同式典（注：「ロ」大統領は出席するも演説せず。4月の信任／罷免投票を控え、プロパガンダ的な出演を避けたとされる）には、サンドバル国防相、シェインバウム・メキシコ市長、デル・マソ・メキシコ州知事他が出席・発言。軍の貢献により、緊縮財政の下でも良質で効率的な公共サービスの提供が可能となった点等が強調された。

3 野党と連邦政府の対話会合が行われない旨の発表

22日、国民行動党（PAN）が、本年1月以来開催が延期されていた連邦政府との対話会合を行わない旨発表。野党は、連邦政府との個別具体的な対話会合の機会を持ちたいとの意思を有していたが、連邦政府の真剣な姿勢の欠如、及び度重なる会合の先送りを理由として、対話会合開催の可能性は破綻した旨発表した。

【外交】

1 ルーラ元ブラジル大統領の訪墨

2日、「ル」元伯大統領（注：本年の伯大統領選での当選可能性が見込まれている）が訪墨し、「ロ」大統領他と会談。墨伯国民間の友好関係及び平等と正義のための（墨現政権及び「ル」元大統領の）共通の闘いが強調された。また、「ル」元大統領は、連邦議会上下両院を訪問した。

2 フェルナンデス米国務次官の訪墨

（2月28日～3月）3日、「フェ」米国務次官（経済成長・エネルギー・環境担当）が訪墨し、ベラスコ墨外務省北米ユニット長と会談した。同会談では、貿易関係の拡大及び北米地域の競争力の推進のための経済分野における墨米両政府間の協力関係が強調された。同次官は、アルボレス環境天然資源相、アルカルデ労働社会保障相、ラミレス大蔵公債相、

デ・ラ・モラ経済省次官等と会談を行った他、墨米民間企業の代表者とも会合した。

3 エブラル外相のロサンゼルス訪問

7日、「エ」外相は米国ロサンゼルスを訪問。現地政治経済関係者、墨系コミュニティ代表者、墨領事館長他と会談。ロサンゼルス商工会議所の代表者との会談では、墨米加新協定（USMCA/T-MEC）及び墨米ハイレベル経済対話（DEAN）を通じた墨米間の経済協力機会につき協議した。また、「エ」外相と同市長との会談では、本年6月に同市で開催予定の米州サミットへ「ロ」大統領が出席すると発表された。

4 グティエレス「ロ」大統領夫人のアルゼンチン及びチリ訪問

9～11日、グティエレス「ロ」大統領夫人は、「ロ」大統領の代理としてアルゼンチン及びチリを訪問。アルゼンチンでは、同国の文化大臣との会談、現地文化行事への参加等を通じて広報文化分野での協力の機会を模索した。チリでは、ボリッチ新大統領の就任式に出席。関連の墨外務省プレスリリースでは、アルゼンチン及び新政権下のチリとの友好協力関係を一層強化する意思が強調された。

5 アルバレス西外相の訪墨

9日、アルバレス西外相が訪墨し、「エ」外相と会談。両外相は、墨EU間の現代化されたグローバル協定への署名推進の重要性、ウクライナ情勢等の地域的問題につき意見交換を行った他、多国間秩序、民主主義、フェミニスト外交の擁護、協力等、両国が一致する問題に関する複数の文書に署名した。なお、「ア」外相は同会談の他、連邦議会上院を訪問し、エネルギー関連憲法改正案の動向につき強い懸念を表明した模様。また、メキシコ大学院大学、シェインバウム・メキシコ市長他を訪問した。

6 欧州議会による墨治安情勢懸念決議に対する墨政府の反応

10日、欧州議会で墨治安情勢（ジャーナリスト殺害の多発）等につき強い懸念を表明する決議が採択されたことを受け、墨大統領府がプレスリリース（「ロ」大統領及び側近による書下ろしである旨、後に公表）を発出。「第四次変革」に反対する腐敗したグループによる反動・クーデター的な戦略に、（欧州議会議員が）羊の如く参加しているのは遺憾である旨、墨では表現の自由及びジャーナリストの職務が尊重されており、国は以前の政権期のように人権を侵害することはない旨、墨は自由で独立した主権国であり、善意を装った干渉主義を捨て去り、進化を遂げられたい旨等が記載された。

7 マヨルカス米国土安全保障局長官の訪墨

14日、「マ」米国土安全保障局長官が訪墨し、「ロ」大統領、「エ」外相他と会談を行った。「ロ」大統領との会談では、「ロ」大統領は、移民の出身コミュニティでの雇用機会及び

米国での正規の雇用機会を創出の必要性を強調し、「マ」長官は、特に本年6月に米国で開催される米州サミットに向け、地域レベルの取組を強化する重要性につき同意した。「エ」外相との会談では、「エ」外相が、特に中米北部諸国の非正規移民の流れの根本原因に対処するための国際協力を加速する必要性を強調し、「マ」長官及びサラサール駐墨米大使は、移民分野での取組を強化する必要性につき一致した。また、両国政府代表団は、国境における手続及びインフラの現代化のための努力を加速させることに合意した。

8 ウクライナ人道状況に係る国連安保理及び総会決議

23日、国連安保理でウクライナ人道状況に関する露提案の安保理決議案が採決にかけられ、否決された（賛成2（露・中）、反対0、棄権13）。棄権した国の多くが、投票理由として（露決議案に含まれない）敵対行為の停止の重要性等に言及した。デ・ラ・フエンテ墨国連常駐代表は、投票理由として、国連憲章2条4項や敵対行為の停止に係る言及がない点を指摘し、敵対行為の停止がウクライナでの人道危機を食い止める大前提と述べた。また、墨仏が総会に提出した決議案（下記注参照）は、ウクライナを含む地域を超えた国々により支持されており、国連総会は敵対行為の即時停止及び国際人道法の完全な尊重の確保にその役割を果たさなければならない旨述べた。なお、翌24日には、国連緊急特別総会で、墨仏主導で提案されたウクライナ情勢に対する人道決議が採択された。

9 墨露、墨米、墨中友好議員連盟の発足

23～24日、連邦下院で墨露、墨米、墨中友好議員連盟が発足し、各記念式典が行われた。墨露友好議連の発足式は、露・ウクライナ情勢に鑑み、国民行動党（PAN）、市民運動（MC）、緑の党（PVEM）等の議員は出席を見合わせたが、労働党（PT）、国家再生運動（MORENA）、及び制度的革命党（PRI）の議員を中心に開催された。同式典では、コロネリ駐墨露大使が、対露経済制裁に参加しない墨政府の対応に謝意を表明し、緊密な露墨関係はウクライナ情勢により影響を受けない旨発言。後日、同発言に対して「サ」駐墨米大使が、現下の状況で露墨関係は緊密であるべきではない等非難した。

10 米軍北方司令官による墨における露諜報活動の指摘に対する墨側反応

25日、米軍北方司令官が墨は露の軍事諜報が世界で最も多く存在する国である旨指摘。これを受け、「ロ」大統領は同日の定例早朝記者会見で、墨は如何なる他国においても諜報活動を行わず、墨国民も外国人も墨国内で罪を犯すことは認められない旨発言。また、30日に当地エル・ユニベルサル紙が掲載した「エ」外相へのインタビュー記事で、同外相は本件につき、米側は証拠を示すべきと述べた。

11 デ・ラ・フエンテ墨国連常駐代表、北朝鮮によるミサイル発射を非難

25日、「デ」墨国連常駐代表が、国連安保理の北朝鮮に係る情報セッションで、北朝鮮

によるミサイル発射を安保理決議違反であるとして強いトーンで非難。北朝鮮によるかかる行動は、外交的解決の可能性を阻み、不信感を増大させ、地域の安全を減じると述べた。また、安保理で採択された北朝鮮に対する制裁は機能していないと述べ、北朝鮮の完全かつ検証可能で不可逆的な非核化に向け、対話を行う必要性を強調した。

1 2 「エ」外相の中東及びインド訪問

26日～4月1日、「エ」外相がサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦（UAE）及びインドを訪問。

（1）サウジアラビアでは、ファイサル外相と会談。経済関係、観光及びイノベーション分野での協力拡大に合意し、エネルギー価格を安定させる重要性につき一致。また、墨サウジアラビア・ビジネスフォーラムで、同国の企業家に対し墨投資拡大を呼びかけた。

（2）カタールでは、ドーハ・フォーラムの機会にボレルEU外務・安全保障上級代表、ケリー米気候特使他と個別に会談し、ウクライナ情勢に係る墨政府の立場を表明。また、同フォーラムの気候変動に係るセッションに登壇し、ラ米カリブ気候適応基金並びに「生命の種まき」プログラムを紹介。

（3）UAEでは、アブダビでUAEの企業家及び主要投資基金代表者に、墨における投資機会を紹介。また、ドバイで世界政府サミットに出席し、国連安保理改革を推進する旨述べた他、ドバイ万博の墨パビリオンを訪問。

（4）インドでは、「エ」外相は、ジャイシャンカール外相と会談し、二国間貿易の強化につき一致した他、セラム研究所、大手製薬会社代表者らと会談。墨でのワクチン及び抗がん剤開発のための、印からの技術移転契約の締結に向け協議。印保健相との会談では、国民の医療情報のデジタル化分野での協力開始に合意。印科学技術相との会談では、特にバイオテクノロジー及び航空宇宙分野での科学協力プロジェクトの加速のための基金設立に合意。また、宇宙関連プロジェクトでの協力開始のため、印宇宙研究庁長官とも会談。

1 3 ケリー米気候特使の訪墨

31日、「ケ」米気候特使が訪墨し、主にエネルギー関連憲法改正案につき、「サ」駐墨米大使、当地米企業家代表者らと共に、「ロ」大統領他と会談。「ロ」大統領は同日、友好的で、必要で、有益な会合であったとツイッターで発信。また、翌日の定例早朝記者会見では、「ケ」特使他米代表団は満足した様子であった、同代表団は憲法改正案への懸念を表明しに来ると予想されていたが、米側から批判等は行われず、敬意ある対応であった等述べた。また、米政府が墨政府に、本件憲法改正イニシアティブ関連の事項を網羅的に確認するグループの設置を受け入れるよう要求するとの報道に触れ、自分（「ロ」大統領）は同提案を受け入れなかった旨述べた（注：「ケ」特使は、会談後、報道陣に対し同専門家グループが「サ」大使を筆頭に結成される旨述べた模様。）。

（了）